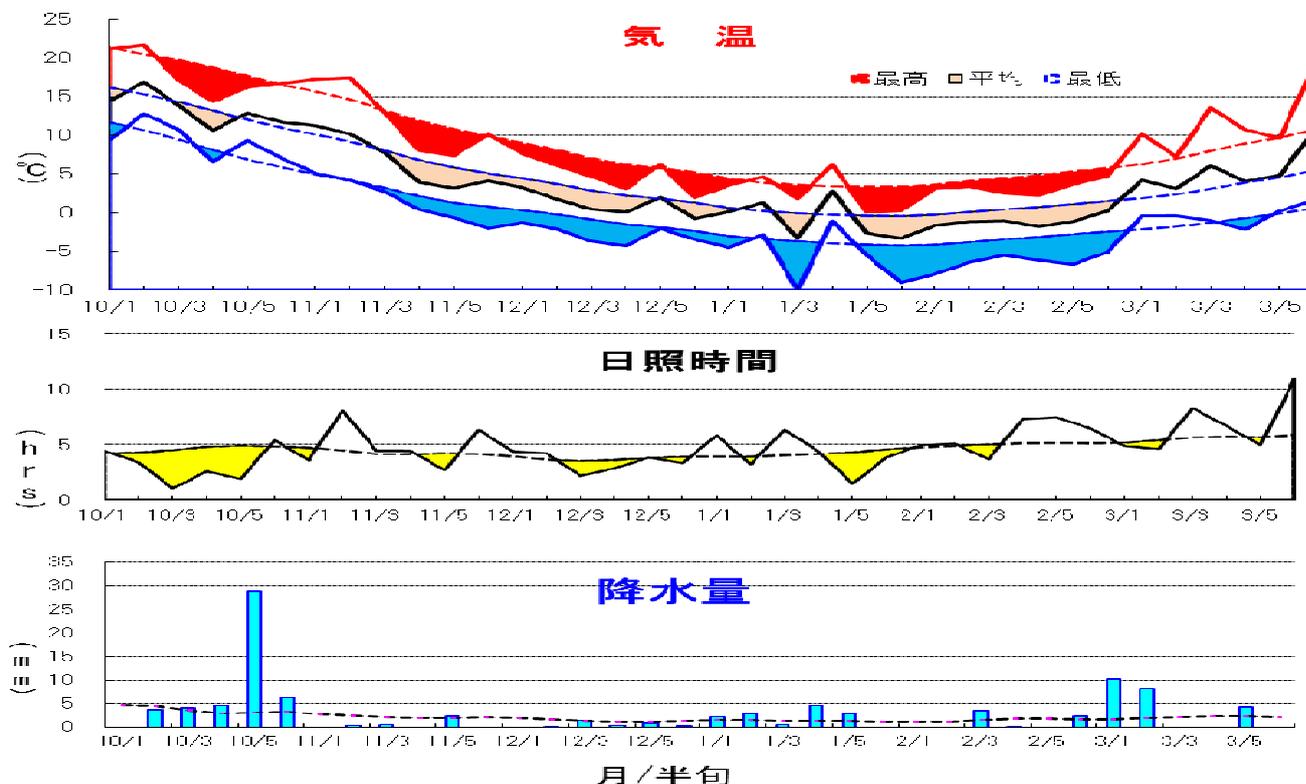


# 麦作情報第2号

平成30年3月28日：JA全農みやぎ

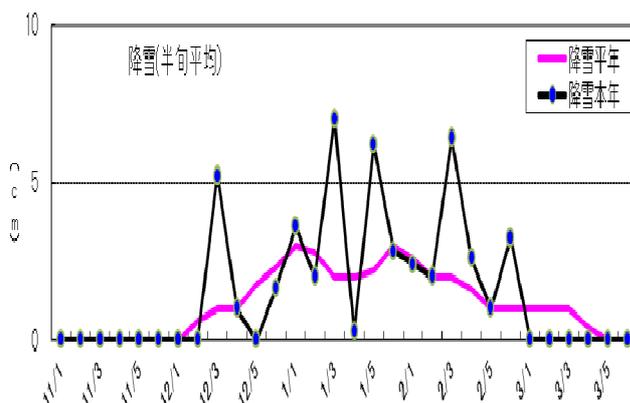
～厳寒を過ぎ一気に生育進むか、茎立ち幼穂発育期間！～

！！排水溝の手直しま！！



## 1 天候の経過 (古川アメダス)

- ・気温は、10月下旬～11月中旬まで平年を上回ったが、1月の一時期を除き、生育全般にわたりかなり低温に推移した。
- ・日照時間は、ほぼ平年並み～寡照傾向であった。
- ・降水量は10月後半に連続した降雨があり、その後、断続的な降雪で雪の多い年となった。



## 2 平成30年産の麦類生育状況 (古川農業試験場調査)

### (1) 出芽状況

- ・10月中旬の低温傾向を反映し、播種後の出芽に関しては、やや長めにかかったものの、出芽の良否は良好で平年並であった。

### (2) 12月15日現在

- ・11月後半から低温傾向であったため、草丈は、大麦、小麦とも平年、前年より短く、平年比

で60～70%となった。

- ・茎数は、大麦、小麦とも前年、平年を大きく下回っており、平年比で3割程度にとどまった。
- ・葉数は、大麦、小麦とも平年より、0.3～0.4枚少なかったが、前年よりはやや多かった。
- ・全品種で越冬前の目標生育量に達していない。（目標：葉数4～5枚、茎数400～500本/m<sup>2</sup>）

#### 生育状況(12月15日現在)

| 品種     | 区分<br>(月/旬) | 草丈         |            |            | 茎数                        |            |            | 葉数        |            |            |
|--------|-------------|------------|------------|------------|---------------------------|------------|------------|-----------|------------|------------|
|        |             | 本年<br>(cm) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本年<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本年<br>(枚) | 前年差<br>(枚) | 平年差<br>(枚) |
| シュンライ  | 10月中旬       | 6.9        | 79         | 57         | 193                       | 51         | 31         | 4.0       | 0.6        | -0.3       |
|        | 10月下旬       | 6.4        | -          | -          | 122                       | -          | -          | 2.7       | -          | -          |
| ミノリムギ  | 10月中旬       | 7.9        | 92         | 60         | 255                       | 54         | 39         | 4.1       | 0.7        | -0.4       |
|        | 10月下旬       | 7.1        | -          | -          | 128                       | -          | -          | 2.5       | -          | -          |
| シラネコムギ | 10月中旬       | 10.7       | 96         | 78         | 155                       | 32         | 25         | 4.3       | 0.5        | -0.4       |
|        | 10月下旬       | 9.7        | -          | -          | 89                        | -          | -          | 2.9       | -          | -          |
| ゆきちから  | 10月中旬       | 8.5        | 92         | 69         | 120                       | 33         | 23         | 4.1       | 0.6        | -0.3       |
|        | 10月下旬       | 7.8        | -          | -          | 73                        | -          | -          | 2.3       | -          | -          |

### (3) 幼穂の発育状況(12月15日現在)

- ・幼穂長は、大麦が0.2～0.5mm、小麦で0.1～0.2mmと前年及び平年より遅れている。
- ・平年の幼穂形成始期が、大麦で2月中旬頃であり、小麦が3月中下旬であるが、積雪と低温のため遅れていると思われる。

| 品種     | 区分<br>(月/旬) | 幼穂長        |             |             | 幼穂<br>分化<br>程度 | 幼穂形成始期      |             |
|--------|-------------|------------|-------------|-------------|----------------|-------------|-------------|
|        |             | 本年<br>(mm) | 前年差<br>(mm) | 平年差<br>(mm) |                | 本年<br>(月/日) | 平年<br>(月/日) |
| シュンライ  | 10月中旬       | 0.4        | -0.2        | -0.3        | V未満            | -           | 2/10        |
|        | 10月下旬       | 0.3        | -           | -           | V未満            | -           | -           |
| ミノリムギ  | 10月中旬       | 0.5        | 0.1         | -0.1        | V未満            | -           | 2/19        |
|        | 10月下旬       | 0.2        | -           | -           | V未満            | -           | -           |
| シラネコムギ | 10月中旬       | 0.2        | -0.1        | 0.0         | V未満            | -           | 3/16        |
|        | 10月下旬       | 0.1        | -           | -           | V未満            | -           | -           |
| ゆきちから  | 10月中旬       | 0.2        | -0.1        | -0.1        | V未満            | -           | 3/21        |
|        | 10月下旬       | 0.1        | -           | -           | V未満            | -           | -           |

### (4) 3月下旬の幼穂

- ・11月に播種したと思われる名取市のある圃場の大麦幼穂長は約2mmであった。（下図参照）



※なお、古試では通常2月と3月に各1回生育調査するが、本年は雪が多く調査不可能であった。

### 3 今後の管理

#### (1) 圃場の排水対策

- ・ 茎立ち以降は特に湿害に弱く、根や幼穂の生長が阻害されるので排水対策を徹底する。
- ・ 明渠が設置されていても冬期の崩れ、浅溝、排水溝に連結されていない例も見られ、降雨時も滞水しないよう排水路を再整備する必要がある。
- ・ 登熟期間に湿害を受けると粒の充実が悪く細麦になりやすい。



#### (2) 追肥

- ・ 大麦は3月下旬、小麦でも3月末～4月第1半旬に幼穂形成期に達し、時期を逃さず早急に幼穂形成期追肥を実施する。
- ・ 幼穂形成期追肥をしないと穂数の減少により減収する。
- ・ 減数分裂期（幼穂長が2～3cm）の追肥で一穂粒数の増加を図る。
- ・ 大麦は、硬質麦の発生を抑えるため、早めに実施する。

追肥の施用時期及び施用量の目安

| 追肥の種類   |               | 幼穂形成期<br>(幼穂長2～3mm)        | 減数分裂期<br>(幼穂長30mm)         | 穂揃期<br>(8～9割が出穂)                         |
|---------|---------------|----------------------------|----------------------------|--|
| 期待される効果 |               | 有効茎歩合増加<br>(穂数の確保)         | 一穂粒数の増加<br>登熟良化            | 小麦の子実タンパク質<br>含有率の向上                     |
| 大<br>麦  | 時期            | シュンライ<br>2月下旬～3月中旬         | 4月下旬                       | 硬質麦防止のため<br>実施しない                        |
|         |               | ミノリムギ<br>3月上旬～4月上旬         | 4月下旬～5月上旬                  |  |
|         | 10a当たり<br>施用量 | 窒素成分2～2.5kg<br>(硫安10～12kg) | 窒素成分2～2.5kg<br>(硫安10～12kg) |  |
| 小<br>麦  | 時期            | 3月下旬～4月中旬                  | 4月下旬～5月上旬                  | 5月中旬                                     |
|         | 10a当たり<br>施用量 | 窒素成分2～2.5kg<br>(硫安10～12kg) | 窒素成分4～5kg<br>(硫安20～25kg)   | 窒素成分2～2.5kg<br>(硫安10～12kg)<br>※ ゆきちからは2倍 |

#### 1ヶ月の天候

- ・ 天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない。
- ・ 平均気温は、高い確率60%で、降水量は、平年並～多い確率ともに40%
- ・ 日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%

